

令和7年度 高知県自殺対策連絡協議会 議事概要

日 時：令和7年9月9日（火曜日） 18：30 ～ 20：20

場 所：高知県庁 正庁ホール

出席者：川田副会長、諸隈委員、西村委員、山光委員、西森委員、赤松委員、松本委員、大石委員、山本氏（岡林委員代理）、門脇委員、石川委員、中石委員、山下委員、山崎会長、谷口委員、松岡委員

事務局 障害保健支援課他

※議事概要中の発言者において委員とあるものについては、委員代理による発言を含む

議題1 「高知県の自殺の現状について」

障害保健支援課より資料1を説明

【意見・質問】

（委員）

20歳未満の死亡者数に関して、さらに年齢を区切る必要があるのではないか。

（事務局）

5歳区分毎に統計が出ており、例えば10歳から14歳、15歳から19歳という形で把握できる。さらに年齢を区切った形での資料の記載方法について検討する。

（委員）

資料にもあるとおり男性の比率が高知県は特に高いというようなことを、どう分析して施策面に反映し、どのような効果があがっているのか教えていただきたい。

（事務局）

動機では、健康の問題と経済の問題がある。健康の問題は、30代から50代については精神疾患の方が多。70代を超えると逆に身体的な疾患の問題が原因になってくる。このような傾向から、男性が多い背景には働きざかり世代の精神的な課題が見受けられるのではないかと想定される。

（会長）

自殺の要因というのは複雑な問題が絡んでおり、原因を出しにくいと思うが、毎年高知県は男性が多いため、しっかりと言及していくべき。

議題 2 「令和 6 年度及び令和 7 年度の取組状況について」

障害保健支援課及び関係課より資料 2 を説明

【意見・質問】

(委員)

タブレットでのこころメーターでは効果があったと簡単に書かれてるが、もう少しどれだけ効果があったのか追求してもよいと思う。また、高知医療センターを中心に一緒に行っている自殺未遂者対応について、高知大学の精神科や思春期の先生方との関連はあまりないのか。

(事務局)

児童・生徒の SOS の根本は不登校やいじめなど生徒間のトラブル、家庭での虐待なども含めて様々な背景がある。子どもの不適應の状況に少しでも気づくことを目的として進めており、どの項目に効果があったかは分からないが、不登校で例をあげると、導入した学校では新たにその年度に不登校になる子どもの出現率が県全体より低かった。

(事務局)

自殺未遂者支援事業の開始前から、高知大学医学部附属病院に委託している心の診療ネットワーク事業で、市町村管内の福祉保健所と学校が思春期の困難事例を一緒に検討する場へアウトリーチ的に出向いていただいていた。また、子ども・若者自殺危機対応チームの専門家メンバーには医大の先生方にも入っていただいております。未遂者支援でフォローしているケースについても、子ども・若者自殺危機対応チーム、地域、学校と一緒に対応を検討をしていただいている。

(会長)

未遂者支援事業では若い人たちが多い状況にあり、生きづらさを抱えていることに関して、高知大学の子どものこころ診療部と連携をしている。いくつかの市町村では精神保健福祉センターが仲介を行い、児童思春期について家庭への支援という形でケース会議を行っている。

(委員)

3 ページ、「イ多重債務者への支援」の C のところで、年々相談者が減少傾向とあるが、仕事を通して多重債務の問い合わせや相談は増えていると感じる。県の方で実施している相談会で人数がそれほど集まらないのであれば、常設相談を構えている司法書士会や弁護士会に繋ぐことも 1 つではないかと思う。

(事務局)

多重債務無料相談会について、通常は県立の消費生活センターで毎月 1 回、弁護士、司法書士の専門家による相談をしている。それとは別に土日の開催を目的として、9 月にこの無料相談会を実施している。今年度は、より広報に力を入れてさん SUN 高知や X で広報を行っている。

(委員)

ゲートキーパーの登録者数が 18 人とあるが、この登録というものはゲートキーパーの研修を受けられて登録をされた方が 18 人というような理解でよいか。何か登録をすれば大きなお役目が回ってくるというようなことがあったりするのか。また、「気づく」というゲートキーパーの役割はすごく大きいと思うのだが、学校現場において、先生は皆さんこのゲートキーパー研修を受けて、キャッチできるような環境が整えられているのか。また職域のところでゲートキーパー養成とはど

のように進んでいるのか教えていただきたい。

(事務局)

スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーが役割を担っている。ただ日頃対応しているのは教職員になるため、教職員への育成にもう少し力を入れていかなければならないと考えている。その一つとして、SOS の出し方教育を進めたいと思っている。

ゲートキーパー研修は、県内自治体によって教職員を集めて研修をしている市町村教育委員会もある。

(事務局)

職域の中におけるゲートキーパー研修は、保健所や市町村単位で管内の事業所向けにアルコールの問題、発達障害など各事業所で困っている内容と組み合わせながら研修を実施できるよう、体制作りが各圏域で進めている状況。

(委員)

産保センターでは職域に関するメンタルヘルス対策を中心に事業所を訪問したり各種研修を実施している。具体的には、法律上であれば衛生管理者や衛生推進者の方、そういった方が専任されていない事業所については労務管理等をしている方に対して研修を実施している。

(委員)

薬剤師会では毎年会員の薬剤師向けにゲートキーパー研修会を行っている。職域に合わせ内容になっており、医療機関にかかっている向精神薬を飲まれている場面を想定してのロールプレイを行ったりしている。また薬剤師が関わる機会が多いうつ病の対応力向上を目的とした専門の先生による講義を実施している。

(会長)

医療機関では、高齢者のメンタルヘルスや高齢者の家族支援を地域で取り組まれていると思うが、生きづらさを抱える住民の方への支援、ひいては自殺予防にも繋がっているかと思う。医療機関で取り組まれている色々な活動について少しご説明いただきたい。

(委員)

当院の精神看護専門看護師が、ここ数年で高校ゲートキーパーの講師として活動している。また、地域に専門が少ないため、緊急活動支援チームが派遣されるまでに時間がかかってしまう。チームも専任ではないので、やはり地元力を作っていけないといけない。なお、小学校、中学校、高校における、認知症や高齢者の体調の変化に気づく子ども達を育てることは継続している。併せて、介護や看護の方にも興味を持ってくれる子どもが増えればいいなと言う考えもある。

(事務局)

先程ゲートキーパーの登録のことについては、何か特別に資格が必要ということではない。支援課の方で行っている研修を終了した方などにホームページの登録のフォームから登録をしていただければ情報を提供できる様な形式をとっている。今後はゲートキーパー通信を発信し、もっと登録に興味を持っていただけるようにしていきたい。

議題3「メンタルヘルスに関する県民意識調査結果について」

障害保健支援課より資料3-1、3-2を説明

(委員)

高知市は市町村の相談機能と保健所としての機能を兼ね備えている。令和6年度実績で訪問、来所、電話、メール相談は、延べ7,032件を対応。そのうち自殺に関する相談が令和6年度実績で述べ112件。令和5、6年度と経年的に見てみると年々増加している。電話や来所相談、訪問でお話を伺う中、必ず自殺リスクの評価を実施している。また、精神状態の見立てや治療の必要性については、主治医や嘱託医相談の先生方に助言をいただいて、本人や家族への支援を展開している。

(委員)

自殺未遂者支援に関しては、幡多地域自殺支援者相談支援事業を実施している。また、管内の市では独自に自殺未遂者支援ネットワーク連絡会が定期的開催されており、同意があれば、警察や自治体の保健師、本人、ご家族も含めて会を実施し、個別ケースについて丁寧に関わっている。また、土佐清水市では、県外で自殺未遂をされる方もいるため、県外とのやりとりが必要になることから、福祉保健所に声をかけてもらい一緒に対応をしている。

(会長)

市町村で生きづらさを抱える方達を取りこぼすことなく支援していくということは、地域共生社会という取組になると思う。高知県で取り組んでいくことについて今一度話をお願いしたい。

(事務局)

市町村への多機関が協働した包括的な支援体制の整備を進めていこうと令和4年度から県をあげてオール高知で取り組んでいる。国の重層的支援体制整備事業を活用することで、有利な財源を使って体制整備を進めていくということを現在主体的に進めている。県としましては、国の重層事業を活用できないに関わらず、全市町村が包括的な支援体制を早く整備できるよう、県社協と一緒に伴走支援をしていく。

議題4「その他について」

障害保健支援課より資料4を説明

(委員)

十数年前にイギリスが精神疾患患者の自殺が非常に多いということで、対策を始めてがそれから急激に自殺が少なくなった。やはり精神疾患に関連した自殺というのも医療センターの事業のように今後対策を考えないといけないと感じた。

(事務局)

自殺を悩んでいる方は直接精神科にかかるのではなく、最初は体の不調を訴えられて一般科のかかりつけにかかられる方が多いため、かかりつけの先生方に精神疾患について知っていただくために、高知県医師会にかかりつけ医研修を委託し実施している。なお、かかりつけから精神科の方に繋いでいただければ、医療に繋がった方の自殺予防にも繋がるのではでないかと考える。

終了